

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人 門前保育会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	〒028-0023岩手県久慈市中の橋4-12-2 (電話) 0194-61-3917		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年3月21日

## 【情報提供票より】(平成19年11月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費負担 円
敷金	有( 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

### (4) 利用者の概要(12月14日現在)

利用者人数	9 名	男性 5 名	女性 4 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.2 歳	最低 82 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちだ医院、岩本歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、社会福祉法人門前保育会の運営する事業所の1つで、JR久慈駅から徒歩で10分、県立久慈病院から徒歩で10分程の久慈市の中心街に位置している。隣接して同法人営の保育園や、商店街、一般住宅もあり、買い物や散歩等によって交流が図られている。グループホームに対する「地域理解」の深まりは今後の課題としながらも、利用者一人ひとりの「その人らしく」の生活を基本とした理念のもと、利用者職員が支え合い、楽しみながら「家庭」の中での役割をもって楽しく生活をしている。ヒヤリハットレポートを基に、全職員で、その防止対策のためのルールを作り上げている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である介護計画の実施状況に係る「3ヶ月に1回の評価・見直し」は、確実に実施し改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新たな内容で自己評価が実施されることは、職員に周知されているが、今回の自己評価のとりまとめは、管理者自身で行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、委員の内諾を得ている段階で、体制整備後、直ちに開催することとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、ホームの「通信だより」でお知らせするとともに、利用明細書等の送付に合わせて、利用者の状況、職員の状況について文書でお知らせしている。また、状態変化時等は、随時連絡を取り合うほか、預かり金については毎月報告し面会時に確認をいただいている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会には加入していないが、隣接の保育園の運動会やバザーなどの行事に参加するほか、地域の婦人部などの訪問を受けるなど、地域交流に努めている。

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本年度において「その人らしさを見つけ出し、明るく、穏やかにくつろげる空間の中で、安全と尊厳、かつ安定して生活を営めるよう、個々の希望に沿った支援を提供いたします。」を独自の理念として、全職員で見直し新たに定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有スペースに掲示するほか、毎月の業務会議で唱和するなどして確認し合い、日常のケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会には加入していないが、隣接保育園の運動会やバザーなど地域の行事に参加するほか、地域の婦人部などの訪問を受けるなどして、地域交流に努めている。	○	近隣地域の一員としての「つながり」を考えると、自治会に加入することが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新たな内容での自己評価の実施については、職員に周知はしているが、今回の自己評価の記載・取りまとめは、管理者が行っている。	○	自己評価に当たっては、全職員の意義等の共通理解の下、職員による話し合いを得ながら、進めることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、委員の内諾を得ている段階で、体制整備後、直ちに開催することとしている。	○	運営推進会議(委員)は、グループホームが地域密着型サービスを展開していくうえでの要となることから、「まず始めてみる」その第一歩を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段は電話連絡や職員が出向いて連絡や相談を行っている。今後は、往來を多くするなど、より緊密な関係づくりに努めたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、広報誌「通信けやぐ」にて、ホーム等の近況を報告するほか、利用明細書等の送付に合わせて、利用者の状況、職員の状況を文書でお知らせしている。状態変化時などは随時、連絡を取り合うほか、預かり金については、毎月報告し、面会時に確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申立窓口(箱)を設置するほか、毎月のお知らせの中で、意見等の申し出をお願いしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった際には、新任の職員と指導担当職員が二人で対応するなどして、出来る限り利用者にダメージを与えないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に向けて、研修への派遣等に積極的に取り組んでいる。特に、新任の職員については、今年度2週間にわたって、1対1の研修に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会には、今まで参加できないこともあったが、今後は、勤務体制等を考えて、出来るだけ多く参加して、その交流を深めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用に際しては、利用者・家族の見学等を行い、ホームの雰囲気馴染んでからの利用を基本としている。特に、ご家族には、グループホームの状況、環境等について理解をさせていただいてから、利用に結び付けて欲しいとしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事(準備、片付け等)や草取りなど、職員と利用者が一緒に活動する場面では、利用者の理解や信頼関係を深めると共に、みずき団子作りなどを教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら生活をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の家族等からの生活歴の聞き取り、普段の会話、表情等を通じての職員の気づきなどを通して、思いや意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント等、本人家族の意向、担当職員の意見を踏まえて、計画作成担当者が、原案を作成。利用者家族の確認・同意を得て計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時の利用者の状態の変化、3ヶ月ごとのモニタリング・評価を踏まえて、必要な見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、ドライブや理容への外出支援等は、一人ひとりの思いや希望にそえるよう可能な限り柔軟かつ臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医となっている。利用者の容態の急変等、家族同行が難しい場合などは、職員の通院支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期等の対応については、家族へ説明し確認しあっているほか、職員においても対応方針について、その共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・失禁への対応、入浴への言葉がけ等、利用者の羞恥心に配慮し、普段から注意しあっている。個人情報についても、鍵のかかる場所に保管するほか、見えないところに配置するなど、その徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れの設定はあるものの、起床や朝食、散歩や入浴など、利用者個々のペースに沿った対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいもの等を聞きながらメニューを決め、買い物、調理、盛付け、配膳、食事、下膳なども、職員と一緒にするなどして、家庭的雰囲気の中で、和気藹々と食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の日・時間等、利用者のリズムで入浴できるように努めている。親しい人との入浴を含めて、楽しくかつ安全な入浴が出来るようにと、個人ごとの入浴マニュアルを独自に定めて対応している。	○	個別的な入浴マニュアルの作成について継続的に取り組むことを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	盛付等食事での作業、ゴミの収集、タオル交換等の場面で、利用者一人ひとりが役割意識を持ちながら、散歩や買い物、ドライブなど、楽しみや気晴らし支援をしながら、変化のある生活を送ることができるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブや屋外での食事等、利用者一人ひとりの思いや希望に応じた外出支援を行うほか、畑作りを含めて、常に外に足が向くような意識づけに努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をしないことを基本とし、職員は利用者情報を共有しながら注意を払っている。時には同行をしたり、また利用者が一人で外出した時等には、隣接保育園職員の協力を得ながら見守るなどして、利用者の思いを損ねないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含めて、年2回以上の避難訓練を実施している。今後、グループホームへの地域理解の促進を含めて、災害等への地域協力体制についても、運営推進会議等で検討していきたいとしている。	○	地域の方々の理解・協力が得られるように、運営推進会議を通じた積極的な働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量については、毎日、記録(サービス記録表)しチェックしているほか、利用者の状況に応じて硬さや大きさ、とろみなどについて気配りしている。献立や栄養バランス等については、毎月、法人栄養士から指導を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造で木の香りがする、ゆったりとした環境の中、共有スペースには、中庭やベンチのほかテレビやテーブルが配置されている。リビングと台所は対面型で、調理等で生活感が感じることができるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた、座椅子や布団、家族の写真や人形等、それぞれ持ち込み、思い思いに配置し、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		